

いとおいしい日々

～ むすめへ ～

清瀬ちこ



おやこの朝

窓辺にさしこむひかり
手作りのサンドイッチ
お着替えと準備にも

ごろごろ だらだら
ぶらぶら ぐずぐず

時計の針はひびいてる

念仏をとなえた胸のなか
一瞬、わすれた きらきらのえがお

すねんぼさん

ぷうっと、ふくらんだほっぺた
ぷうっと、つきだしたくちびる
いっしょうけんめい、こわいめをつくる

いいたいこともいわず
ずうっと、すねている

ほうったらかして、ごはんをつくる
ほうったらかして、おせんたくをたたむ

しだいに、めには涙の海
しだいに、こころは淋しさの底に

かまってほしい、すねんぼさん
たしかめたいのは、あいされていること
求められていることだけの、実感

なきむし、さびしんぼさん

みんな人であるから
みんなこころであるから
みんなあたまであるから

みんなこころぼそい
みんな泣きたいのだ

ほんとは手をつなぎたくて
手をだせない、のばせない

みんなで手をつないでみたら
みんな、みいんな、笑顔になる



てのひら

てのひらにふれると
そのあたたかさに驚くことがある

やんわりと温い手
ごつごつと熱い手
ぶあついがかたく冷たい手

そのどれにも意思があるように
さまざまなかたちの手、手、手

どれをとっても 熱を帯びているのは、てのひら
てのひらにふれるだけで通ってしまうもの

てのひらはこころ、あたま
おそらく、情も通うのでしょう

おむすび

ふと、てをとめる
目とめがあったとたんに
どうしてがはじまる

おむすび、たかい、たかいしているの？

だれかさんをさしおいて
だれとも遊ばせんよ

無邪気なこえも高らかに
宙にまいあがるほっぺに、おべんとう

みずあそび

おさない声はシャワーになって
あちらこちらでこだまして

きらきらした瞳に
おひさまを浴びて

ちからいっぱい せいいっぱい
かおが濡れても泣かない子

すべって 浸かって
きらきらを浴びて
きらきらとひかる、宝もの



おてがみ

たどたどしく ならば文字は紙のうえ

どこへいくやら みみずの行進

なまえの行列 はっせいれんしゅう

流れでていく きれぎれの音

混じってでたのは夕飯のにおい、お腹のお返事

まなぶちから

たのしくて たのしくて
おもしろくて おもしろくて

知らないあいだに
だいすきになって

たのしいから ひっしで
おもしろいから むちゅうで

みみをすまして
めをこらして

だいすきなきもち
大きくなって 自信となって
しずかに、たしかに、ちからの蓄へ

産みの親の知らないあいだに

こもりうた

うまれたばかりの赤ん坊
こもりうたうたって、ねんねんね

きょうもうたう、おかあさん
いつのまにやら、とんとんとん
おかあさんのまね、とんとんとん

かわいいちいさな、もみじのおてて
うたにあわせて、とんとんとん
おかあさんといっしょに、あそんでる



いとおいしい日々 ～ むすめへ ～

<http://p.booklog.jp/book/53093>

著者：清瀬ちこ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/marupyonlove/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/53093>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/53093>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ